

教育と文化

国史跡大川内鍋島窯跡の発掘調査成果 明らかになっていく国内唯一の藩窯の歴史

市教育委員会では国史跡大川内鍋島窯跡（大川内山）の整備を進めるため、平成26年度から発掘調査を進めています。江戸時代に大川内山で作られた鍋島焼は、佐賀藩が

将軍家への献上や幕府の要人への贈答用として作り出した、特別あつらえの磁器製品です。

現在調査している日峯社下窯跡は、初期段階の鍋島焼を焼成していた窯跡で、これまでの調査で窯跡の全長や焼成室の規模などの基礎資料を得ることができました。さらに、窯の横に位置する広い作業段やマウンド状になった物原（失敗製品の廃棄場所）など、他の肥前地域の窯跡では見られない特殊な遺構なども確認しました。

また、出土した鍋島焼の破片は、鍋島焼の形や絵柄が外部に漏れないようにするため意図的に壊されており、調査によって鍋島焼の特殊性がより明らかになりました。さらに、今まで知られていない新たな文様の破片も出土しています。

今年度は、発掘調査成果の中間報告として、シンポジウムや出土遺物の展示を行い、鍋島藩窯や鍋島焼の歴史を明らかにする予定です。



↑ 第8焼成室の調査状況



↑ 物原での鍋島焼の出土状況

郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ⑳

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 1262

飯盛城跡

飯盛城跡は山代町久原字城山に所在する中世の山城跡で、『城山』の山頂に位置し、西には田代池が所在しています。

城跡は最高所に主郭を配置しており、主郭の南東部隅には虎口と思われる高まりが残されています。主郭の北側には主郭と一体的な構造となつている曲輪が2つ続き、その北に2つの曲輪と1つの腰曲輪が配置されています。主郭の南には主郭の次に広い曲輪が配置され、この曲輪の周りには腰曲輪が巡っています。この曲輪の南側に8段下がった位置には石垣造りの痕跡を残す曲輪があります。この石垣造りの曲輪の西側斜面には南西方向に堅堀が2条並行して構築され、堅堀に並走して土塁も築かれています。

います。

飯盛城の由来としては、建久3年（1192年）に源六郎困が宇野御厨内の山代浦の地頭職に補任されて以来、段階的に整備されたと考えられます。

城跡までは、南西標高300段付近まで林道を車で登り、そこから徒歩で5分程度となります。



↑ 飯盛城（赤：道、緑：飯盛城跡、黄：県道5号線）